

代表決定トーナメント戦における競技要項の詳細

秋季中国大会（代表決定トーナメント戦）の競技要項詳細については、下表のとおり行う。

	決勝戦まで（三位決定戦）	決勝戦（代表決定戦）
試合成立		5回完了
正式試合		7回
投球回数制限	あり（上限到達選手は、捕手への交代も制限）	
時間制	あり（2時間制）	なし（時間無制限）
コールド	あり（4回：10点差、5回以降：7点差）	なし（棄権の場合はコールド適用）
延長戦	なし	あり（最大9回裏まで）
タイブレイク	あり（1アウト満塁：最大3イニング）	あり（決着がつくまで）
抽選決着	あり（タイブレイク後、同点の場合）	なし
審 判	【準決勝まで】球審・二塁：本部、一塁・三塁：各チーム（担当は対戦表を参照） 【準決勝から】全審：中国支部審判部	
禁止事項	一日4試合、一日ダブルヘッダー、ナイターゲーム	※全て原則

上表の詳解については下記のとおり。

【決勝戦までの適用について】※三位決定戦含む

試合成立ならびに正式試合

試合は7イニングまで行い、時間制を採用する。試合開始から2時間を超えて新しいイニングには入らない。

※ 但し、以下の場合は例外とする。

- 1 試合成立（5回完了）までは、2時間を超えて試合を行います。
- 2 後攻チームがリードしたまま攻撃中に2時間が経過した場合は、その時点で試合を打ち切ります。

コールドゲーム

4回10点差 または 5回以降7点差。（大会中に棄権した場合は、7-0の5回コールド負けとする）

タイブレイク

試合開始から2時間または7回を終了し、同点の場合は次の回から最大3回のタイブレイク戦に入ります。

！重要！タイブレイク戦に入った時点でタイムカウントは止まります（時間制の適用外）

- ・ タイブレイク戦は正式試合終了後、同点の場合は必ず適用します。（2時間超えていても必ず実施）
例：5回終了後、2時間を経過し同点の場合は、6回から最大3回タイブレイク戦を行う。
6回終了後、2時間を経過し同点の場合は、7回から最大3回タイブレイク戦を行う。
7回終了後、同点の場合は、8回から最大3回タイブレイク戦を行う。
- ・ タイブレイク戦を行っている途中に2時間を経過しても、途中で打ち切りません。
- ・ 最大3回のタイブレイク戦を戦い、それでも同点の場合は、両チームの最終メンバー9名にて勝敗抽選を行います。

【決勝戦の適用について】

試合成立ならびに正式試合

- 試合は7イニングまで行い、**時間制を採用しません**。（7回までは時間無制限）
- ※但し、**試合の成立は5回**となります。（野球規則：競技に関する連盟特別規則（少年部・学童部）による）

コールドゲーム

コールドゲームは**採用しません**。（但し、大会中に棄権した場合は、7-0 の5回コールド負けとする）

延長戦

- 7回終了し、同点の場合は**最大9回裏まで延長戦**を行います。

タイブレイク

- 9回裏までの延長戦を行い、同点の場合は10回表より、**勝敗の決着**がつくまでタイブレイク戦を行います。

サスペンデットゲーム（特別継続試合）について

降雨及び日没などにより、試合の途中で中止された場合、特別継続試合を適用します。

適用するケース

- 試合が成立する前（5回完了する前）に中止になった場合。
- 試合成立後、7回を完了するまでに、残り時間がある場合。

特別継続試合のルール

- 中止となった元の状態から継続するため、**元の試合で交代した選手は出場できない**。
- 監督・コーチの交代は認めるが、試合前に大会本部へ変更メンバー表を提出すること。
- 投手の投球回数制限はそのまま生きる（リセットされない）**
- 残り時間は元の試合の経過時間から引き継ぎ、合算で2時間とする。
- 特別継続試合の日時、球場、審判員はリーグ役員にて決定する。

注1) 特別継続試合は、原則として、**翌日の第一試合**に割り当てられます。

注2) **試合成立後（5回終了後）に中止となった場合は、リードしているチームが勝利**となり、特別継続試合は適用されません。

注3) 試合成立後（5回終了後）同点で試合が中止の場合は特別継続試合を適用します。

※タイブレイク中に、中止となった場合は、特別継続試合は適用されず、両チームの最終メンバー9名にて勝敗抽選を行う。（タイブレイクの再試合は行わない）

注4) 試合中止の判断は、審判員、大会役員、球場責任者の協議判断によるものであり、当該チームが意見を申し出ることはできない。（日没の場合も含む）